

- ① 開催年月日 令和3年3月25日 14:00～16:00  
② 開催場所 宇治商工会議所(京都府宇治市宇治琵琶45番地の13)議員講話室  
③ 委員の出席 委員総数 7名  
出席委員数 5名  
放送事業者側出席者数 2名(局次長、ディレクター)

④ 議題

- (1) 京都府コミュニティFM9局合同ラジオ番組311防災リレートーク「東日本大震災から10年の記憶」

(2) 報告事項

3月10日、30日 特別番組「城陽パープルタイムSP」について  
パーソナリティ変更について  
以心伝心888新コーナーについて

- ⑤ 議事の概要 実際に見聞きした被災地の経験などを織り交ぜ、話に説得力を感じた。  
東日本大震災の内容の中に、地元と関係した話題を入れるなどコミュニティ放送らしさを感じた。  
オンラインを活用した取り組みが今後の番組作りにも活用できるのでは。  
コミュニティ放送局が連携することで番組の幅が広がる。  
などの意見が多数出された。

⑥ 審議内容

ディレクター 今回審議して頂くのは、3月11日木曜日14時から15時に放送した特別番組です。  
東日本大震災から10年目を迎え、震災の経験と記憶を風化させない為、  
京都府のコミュニティFM局9局が合同で特別番組を放送しました。  
京都府での大規模災害を想定し、コミュニティFM放送局の連携を深めると共に、東日本大震災の  
教訓を踏まえて未来の災害への備えを伝えました。FMうじからは福島県出身のパーソナリティが番組  
を進行し、実際に見聞きした被災地の当時の様子、10年が経過した今の様子を伝えました。  
またコミュニティFMとして災害時の地域の情報源としての役割についてなどもお送りしました。  
インターネット会議システムzoomを利用し各局で中継を繋ぐ初の試みも行いました。

～同録～

委員長 今回担当されたパーソナリティは、福島出身とのことで話される内容にとっても深みがありました。

委員 実際パーソナリティのお母さまが被災されたとのことで、話が非常に具体的でわかりやすかったです。  
当時の様子や、実際被災されたお母さまのお話により、震災がとても身近に感じることができ、  
話される言葉1つ1つに色々な想いがあり心に響きました。巨大災害の恐ろしさが強く伝わりました。

委員 中継では他局のパーソナリティさん方は、原稿を読み上げているように聞こえました。  
テーマや内容によって難しいかもしれませんが、原稿をただ読み上げるのではなく、自分の話し  
口調で表現したり、自身の意見を取り入れるなどするとより内容に強みが出たのでは。

委員 各ラジオ局から1人ずつパーソナリティが出ておられましたが、FMうじのパーソナリティの声は  
特徴的で聞きやすかったです。少し話されるスピードが速いように感じましたが、はっきりと発音される  
ので話の内容が入ってきやすいです。ただ、今回のテーマの時などは声のトーンをもう少し落としても

よかったかもしれません。

委員 この様な番組をきっかけに今後も連携を深めて、様々なテーマの番組を作ってほしい。

委員 今回「発災」という言葉が使われていましたが、「発生」との意味の違い、また使い方を注意した方がいい。

委員長 ラジオの場合私たちの耳になじみのある言葉を使う方が理解してもらいやすいです。

委員 気になったのは各局の自局の紹介ですが、FM～とは言われていますが、どの地域のラジオ局か具体的に紹介されていなかったのも、ラジオに馴染みがないリスナーの方はわかりにくいかも知れないです。

委員 東日本大震災の話題が中心の中、地元絡んだトピックスも番組で紹介されていた点がよかった。コミュニティ放送らしさの出た番組であると感じた。

委員 洛タイ新報に放送日前日に記事が載っていましたが、事前告知はとても良いと思います。特別番組などレギュラーな番組は積極的に広報していくと効果的です。

委員 コロナ禍でのオンラインを活用した放送の方法は、今後上手く使っていけば他局との交流や番組の方向性も広がりますね。